

# 英語科教育法における Teaching Knowledge Test (TKT) コース を利用した指導の可能性

福 田 慎 司\*

## 1. はじめに

日本の学校教育において「グローバル化」に対応した英語教育の必要性が高まっている。2011 年度に小学校では 5 年生から週 1 時間の外国語活動が必修化され、中学校では 2012 年度から英語の授業数が週 3 時間から週 4 時間に増やされた。2013 年度から実施された高等学校の新学習指導要領には「授業は英語で行うことを基本とする」と記載されている。また、2013 年 12 月に文部科学省が発表した「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」（以下、改革実施計画）では、「初等中等教育段階からグローバル化に対応した教育環境づくりを進めるため、小学校における英語教育の拡充強化、中・高等学校における英語教育の高度化など、小・中・高等学校を通じた英語教育全体の抜本的充実を図る。2020 年（平成 32 年）の東京オリンピック・パラリンピックを見据え、新たな英語教育が本格展開できるように、本計画に基づき体制整備等を含め 2014 年度から逐次改革を推進する」と、小学校から高等学校まで新学習指導要領が全面施行され終わった翌年にあたる 2014 年度に向けて、早速新た

---

\* 福岡大学人文学部准教授

な計画が発表された。そして、高等学校においては同じく 2014 年度から「国際的に活躍できるグローバルリーダーを高等学校段階から育成するため」（文部科学省 2013）スーパーグローバルハイスクールという新事業も始まる。改革実施計画では、中学校においても授業を英語で行うことを基本とし、高等学校では授業を英語で行うことはもちろん、言語活動については発表、討論、交渉等を通して現在よりも授業を高度化させることを目指している。

このような急激な学校現場における英語教育の変化に対応すべく、英語科教員の英語力を含めた体制整備についても対応が求められている。改革実施計画では、「新たな英語教育の在り方実現のための体制整備（2014 年度から強力に推進）」として、以下の 4 つを挙げている。1. 小学校における指導体制強化、2. 中・高等学校における指導体制強化、3. 外部人材の活用促進、4. 指導用教材の開発。この中の 2. 中・高等学校における指導体制強化では、中・高等学校英語教育推進リーダーの養成、中・高等学校英語科教員の指導力向上、外部検定試験を活用し、県等ごとの教員の英語力の達成状況を定期的に検証（全ての英語科教員について、英検準 1 級、TOEFL iBT 80 点程度等以上の英語力を確保）することになっており、英語科教員の英語授業力や英語運用力についての指針がはっきりと示されている。

将来英語の教員になることを目指す学生が受講する英語科教育法の授業においては、英語教育の目的論、教師論、教授法など英語科教員として必要な知識の講義や教える練習をする模擬授業は行われているが、英語科教育法の授業を英語で行っているという授業研究発表や実践報告は多いとはいえない。本稿ではこの点に注目し、将来英語科教員を希望する学生が英語を使用して授業を行うことができるようになるため、英語や英語教育についての知識を英語で学習できる Teaching Knowledge Test（以下 TKT）のコースを利用した指導についての提言を行うことを目的とする。

## 2. Teaching Knowledge Test (TKT) について

TKTは英国のケンブリッジ大学英語検定機構 (Cambridge English Language Assessment) が2005年に開発した、英語教員に求められる言語・教授法の基礎知識を測るテストである。国際的に認知された資格で、英語学習と指導の知識・背景、授業計画や教材活用法など、英語科教員が身につけておくべき基礎的な知識の有無を測ることができる。テスト結果は合格・不合格ではなく、モジュール (module) と呼ばれる分野それぞれにわたって band 1 (限られた知識) から band 4 (広範囲な知識) の4段階で評価される。

TKTは、Module 1 (モジュール1)、Module 2 (モジュール2)、Module 3 (モジュール3)、Content and Language Integrated Learning (CLIL: 内容言語統合型学習)、Knowledge about Language (KAL: 英語についての知識)、Young Learners (YL: 教える対象が年少者)、Practical (実技) の7つに分かれている。Module 1はLanguage and background to language learning and teaching (英語および英語学習と指導に関する知識)、Module 2はLesson planning and use of resources for language teaching (授業計画と英語指導のための教材活用)、そしてModule 3がManaging the teaching and learning process (指導や学習プロセスの管理) で、この3つとPracticalが基本モジュールとなっており、日本の英語科教育法の授業で学生が学習すべき英語教育の基礎となる内容である。Practicalの受験には教職経験が必要であるが、他の6つのモジュールはそのような受験要件がないため、大学生など教員免許状を持っていない者でも受験することができる。またテスト形式は、Practical以外の6つのモジュールは全て80分間の試験時間で80問がマーク式で出題される。実技であるPracticalのみ40分1回もしくは20分2回の実技を行い評価される。

### 3. 英語科教育法の授業で使用する教育プログラム

#### 3.1 The TKT Course

TKTを受験する準備として、また英語教育に関する基礎知識を英語で学べるテキストとしてケンブリッジ大学出版局から“The TKT (Teaching Knowledge Test) Course Modules 1, 2 and 3” (以下、TKT コース) が出版されている。このテキストは英語教育の基礎となる Module 1 (英語および英語学習と指導に関する知識)、Module 2 (授業計画と英語指導のための教材活用)、Module 3 (授業計画と英語指導のための教材活用) の内容を英語で学べるようになっている。日本の中学校、高等学校の教員免許状を取得する上で、また、教員になった後に英語で授業をすることも踏まえて、本稿ではこのTKT コースを英語科教育法の教育プログラムの柱として利用する可能性を探る。TKT コースが英語科教育法にどのように活用できるのかを検証するため、Module 1、Module 2、Module 3それぞれの内容を分析する。

#### 3.2 Module 1

Language and background to language learning and teaching

モジュール1では、英語そのものと英語学習と英語指導の知識や背景について書かれている。

Part 1 Describing language and language skills

Unit 1 Grammar

Unit 2 Lexis

Unit 3 Phonology

Unit 4 Functions

Unit 5 Reading

## Unit 6 Writing

## Unit 7 Listening

## Unit 8 Speaking

モジュール 1 がさらに 3 つのパートに分かれており、パート 1 では英語そのものの知識と英語の 4 技能習得に必要な知識を学べる。文法用語、品詞、語彙、発音記号、発話の丁寧さ、リーディング・ライティング・リスニング・スピーキングスキルそれぞれについての基本概念、授業で使用できる活動などが記されている。また、学習した内容に関して、自分の意見を英語で発表する活動も含まれている。例えば、Phonology の部分には、

Think about the comments from teachers. Which do you agree with and why?

1. I don't think we need to teach 'correct' pronunciation these days because people all over the world speak English with different accents.
2. You can't improve the pronunciation of adults – there's no point in trying.
3. Knowing about phonology can help teachers when they plan and give their lessons.

上記のような練習問題がある。教員のコメントについて賛成するものを選び、なぜ賛成するのかを説明させるのである。「現在、世界中で様々ななまりのある英語が話されているので「正しい」発音を学ぶ必要がない」「大人になってからは発音を上達させることはできない」「音韻論の知識は授業をする教師に役立つ」この 3 つの中から自分が正しいと思うものを選び、その理由を述べて説得力ある主張を行う練習ができる。

## Part 2 Background to language learning

## Unit 9 Motivation

Unit 10 Exposure and focus on form

Unit 11 The role of error

Unit 12 Differences between L1 and L2 learning

Unit 13 Learner characteristics

Unit 14 Learner needs

Unit 15 Approaches to language teaching

パート 2 では、英語学習についての背景知識を取り扱っている。学習者のやる気を高める方法や、学習者に英語に触れさせるだけではなく文法事項などにも注目させる必要性が述べられている。間違いの持つ意味や母語と第二言語の違い、学習者の特性やニーズ、教授法の理解など、言語学習についての内容が網羅されている。例えば、学習者が自分の特質に合わせてどのやり方で学習したら効率がよくなるかという Learning Styles の例のいくつかを下のように挙げている。

Visual...the learner learns best through watching and looking.

Auditory...the learner learns best through listening and hearing

Kinaesthetic...the learner learns best through being physical, while moving  
or touching things.

目で見て学習するのが得意な学習者、耳から覚えて学習するのが得意な学習者、体を使って英語を覚えるのが得意な学習者など、学習者個人の特質があることを認識しなくてはいけないことが分かる。

Part 3 Background to language teaching

Unit 16 Presentation technique and introductory activities

Unit 17 Practice activities and tasks for language and skills development

Unit 18 Assessment types and tasks

パート 3 では、英語を教える時に必要となる知識が学べる。教師が授業中ど

のように学習者の注意を引き活動をさせていくか、また、様々な活動が紹介され評価をどのように行うかなど実践的な知識が含まれる。例えば、実際に授業で使えるコツとして以下のような例を挙げている。

-Using several kinds of activities in our lessons adds variety. This helps to keep lessons more interesting and motivating.

-Activities in lesson are usually linked so that the first one leads into and helps the next, etc. There are several different ways of linking activities in lessons.

ひとつの授業で数種類の活動を入れて授業を面白くし学習者の動機づけにつながることや、授業中の複数の活動にはつながりをもたせることを意識するなど実践的なアドバイスが書かれている。

### 3.3 Module 2

#### Lesson planning and use of resources for language teaching

モジュール 2 には、授業計画の立て方や授業で使用する教材の活用法について 2 つのパートに分けて書かれている。

#### Part 1 Planning and preparing a lesson or sequence of lessons

Unit 19 Identifying and selecting aims

Unit 20 Identifying the different components of a lesson plan

Unit 21 Planning an individual lesson or a sequence of lesson

Unit 22 Classroom assessment activities

パート 1 は授業計画の立て方である。授業の目標の立て方や、効果的な指導案の作成、授業の流れについての考察、クローズテストやインフォメーションギャップなどの活動について詳しく解説されている。例えば、授業の目的については以下のアドバイスが与えられている。

-The syllabus (i.e. the course programme) and/or the coursebook will give us a general direction for planning our teaching. To specify main aims for a particular lesson (i.e. to say exactly what the aims are), we think about our learners' needs and the stage they have reached in their learning.

学習者のニーズやレディネスを考え合わせてその授業の主目的をはっきりさせることが必要であるなど、授業準備に役立つ実践的なアドバイスが書かれている。

## Part 2 Selection and use of resources

Unit 23 Consulting reference resources to help in lesson preparation

Unit 24 Selection and use of coursebook materials

Unit 25 Selection and use of supplementary materials and activities

Unit 26 Selection and use of teaching aids

パート2は主教材や副教材などの活用法について書かれている。授業計画を立てるための情報を検索する方法や、主教材・副教材の使用法、インターネットなどテクノロジーを利用した授業のやり方などの例を挙げている。このパートでは、授業で取り扱う文法を調べる時のアドバイスが以下のように書かれている。

-Language changes, as new words appear and people stop using some older words. Grammatical usage, too, changes slowly over time. One way to keep up-to-date is to use the most recently published grammar books and dictionaries.

新しい言葉が生まれたり使われなくなった言葉が出てきたりするが、文法についても同様のことがいえる。最新の文法書を参考にするなどして現在の英語の使われ方に注意を向けておかなければならないことなど、教員が英語を調べる時の基本的な姿勢について述べられている。



### 3.4 Module 3

#### Managing the teaching and learning process

モジュール3では、英語指導や英語学習の過程をどのように管理するかについて、授業を行う上での実践的なアドバイスが2つのパートに分けて書かれている。

#### Part 1 Teachers' and learners' language in the classroom

Unit 27 Using language appropriately for a range of classroom functions

Unit 28 Identifying the functions of learners' language

Unit 29 Categorising learners' mistakes

パート1では、英語の授業で用いるクラスルームイングリッシュの機能、学習者の発話の意図、学習者の誤りの分析などについて書かれている。

-Learners can lose motivation if we correct every mistake they make.

They become anxious and more unwilling to take risks and this can have a negative effect on their learning. We need to think carefully about what, how, and when we correct.

間違えるたびに教員に訂正をされていたら学習者は嫌になってしまうので、何を、どのように、どのタイミングで誤りを訂正するかは注意を払うべきことであるという学習者の心理的な面まで考慮した実践的なアドバイスが載っている。

#### Part 2 Classroom management

Unit 30 Teacher roles

Unit 31 Grouping learners

Unit 32 Correcting learners

Unit 33 Giving feedback

パート2では、教師の様々な役割や、学習者の活動の際のペアワーク、グループワークなどグループの組ませ方の例が紹介されている。学習者が書いた英文の校正のやり方やバランスのとれたフィードバックの与え方など、授業をうまく運営させるためのコツが述べられている。教員の役割としては、

1. Planner、
2. Manager、
3. Monitor/Observer、
4. Facilitator、
5. Diagnostician、
6. Language resource、
7. Assessor、
8. Rapport builder

の8つを挙げている。

これまで Module 1、Module 2、Module 3 の概要を述べてきたが、英語科教育法の授業で使用する場合において特に有益だと考えられる点をまとめる。まず、学生は英語で英語教授知識を学習するため、英語で授業を行う準備ができるという点である。通常のように一人で授業を行う時だけでなく、ALT とのチーム・ティーチングにおいても役立ち、授業の準備・実行・反省を ALT とより効果的に話し合うことができるようになると考えられる。また、Module 1 では、英語について英語で学習することになり、学生の英語力の向上にも役立つ。そして、TKT コースが世界で必要とされている英語教育の知識を取り扱っているので、日本の状況だけでなくグローバルな視点から考えられた英語教育の在りようが理解できる点も重要である。小学校・中学校・高等学校においてグローバル化に対応した英語教育を行う場合、大学はその教育を担うことができる教員を養成しなければならない。その点で英語科教育法の教育プログラムに TKT コースを利用することは有益であると考えられる。

#### 4. 教員採用試験との関連

ここまで全33ユニットに分けられたTKTコースModule 1、Module 2、Module 3の内容とその利用価値について述べてきた。それではTKTコースと教員採用候補者選考試験の関係はどうか。実際に教員採用候補者選

考試験に使用された問題と比べながら、その有用性を検証する。

『平成 24 (2012) 年度 福岡県公立学校教員採用候補者選考試験問題 中学校・高等学校 英語 (筆記)』で出題された中学校指導要領についての問題は以下の通りである。

次の英文は、「2 内容 (4) 言語材料の取扱い」の一部である。(ア)～(エ)に当てはまる英語一語を書きなさい。

(4) Treatment of the Language Elements

- A. For spelling instruction, both the (ア) and the corresponding (イ) should be taken up.
- B. Language activities should be conducted in such a way as grammar is effectively utilized for (ウ), based on the idea that grammar underpins (ウ).
- C. For the treatment of “(3) D. Grammatical items,” consideration should be given so that instruction does not center on issues like (エ) grammatical terms or differentiating between usages, but on actual use of grammatical items...

このように福岡県の教員採用候補者選考試験の問題では、学習指導要領の中の言語材料についての知識が英語で問われている。文部科学省が英語による英語教育を推し進めているため、今後はこのように各県や市において英語教育についての知識を英語で理解し、グローバル化に対応する英語科教育を行うことができる教員の採用がますます増えると考えられる。TKT コースで学習する英語による英語教育の知識が教員採用候補者選考試験のみならず、実際に学校現場で英語による授業を行う時の重要な核となりうるであろう。

## 5. まとめ

これまで TKT コースの内容を分析し、大学の英語科教育法の授業で利用する利点を示してきた。TKT コースを使用することにより将来英語教師として英語で指導する場合に必要な実践的知識を身につけることができると考えられる。また、日本以外の視点から見た英語教育のやり方について知ることができるのも大きな利点である。しかしこの TKT コースの Module 1、Module 2、Module 3 を使用するだけでは不十分であろう。TKT Modules 1, 2, and 3 で高い評価を受けたとしても、実際に英語で授業ができるかどうかについては証明できないからである。そのため英語授業力を証明できる TKT Practical を併用し、その準備をすることで英語科教員として必要な力を身につけるなどの工夫が必要である。

文部科学省が発表した改革実施計画に、教員養成課程・採用の改善充実の課題として、「当面の指導体制の整備と並行して、高度な英語力と指導法を身につけた教員の養成・採用が必要」と書かれ、その具体の施策の中には「英語科教員について外部検定試験を活用するなど、採用選考の改善促進」とある。TKT はその性質上、英語力と英語教育についての両方の知識の有無を証明できる文部科学省のいう外部テストに該当すると考えられる。この点からも英語科教育法において TKT コースを導入する意義は大きいであろう。

今回取り上げた TKT コースを利用することで英語科教育法をグローバル化に対応した実践的な授業に近づけることができると考えられる。しかし英語科教育法の授業内容をさらに向上させるためには、有益と考えられる他の多くの方法も検証し利用すべきである。次回以降の研究課題としたい。

## 参考文献

- 土屋澄男 編著、秋山朝康・千葉克裕・蒔田 守・望月正道. (2011). 『新編 英語科教育法入門』. 研究社
- 前田昌寛. (2012). 『高校英語「授業は英語で」はどこまで?』. 北國新聞社.
- 文部科学省. (2010). 『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』. 東洋館出版
- 文部科学省. (2008). 『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』. 東洋館出版
- 文部科学省. (2008). 『中学校学習指導要領解説 外国語編』. 東洋館出版
- 平成 22 年度福岡県公立学校教員採用候補者選考試験問題 中学校・高等学校 英語 (筆記). (2009). 福岡県教育委員会
- 平成 23 年度福岡県公立学校教員採用候補者選考試験問題 中学校・高等学校 英語 (筆記). (2010). 福岡県教育委員会
- 平成 24 年度福岡県公立学校教員採用候補者選考試験問題 中学校・高等学校 英語 (筆記). (2011). 福岡県教育委員会
- 平成 25 年度福岡県公立学校教員採用候補者選考試験問題 中学校・高等学校 英語 (筆記). (2012). 福岡県教育委員会
- 平成 26 年度福岡県公立学校教員採用候補者選考試験問題 中学校・高等学校 英語 (筆記). (2013). 福岡県教育委員会
- 文部科学省. 「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」について. (2013 年 12 月 13 日)
- [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/25/12/1342458.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/25/12/1342458.htm)
- Council of Europe. (2001). “Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment. Cambridge University Press
- Diane Larsen-Freeman & Marti Anderson. (2011). “Techniques & Principles in Language Teaching”. Oxford University Press
- Jim Scrivener. (2005). “Learning Teaching: The Essential Guide to English Language Teaching. MacMillan.
- Mary Spratt, Alan Pulverness, & Melanie Williams. (2011). “The TKT (Teaching Knowledge Test) Course Modules 1, 2 and 3 Second Edition”. Cambridge University Press

Koji Uenishi. (2007). "Factors in Determining English Speaking Ability: With a Focus on Japanese EFL Learners". Keisuisha.